

秘密保全法制

2.19 院内集会／2.26 シンポジウム

主催：日本弁護士連合会

憲法上の諸原理に正面から衝突し、国民の権利に多大な影響を与える「秘密保全法制」。

当初は、今国会にその法案が提出されることが予定されていましたが、未だそれを免れています。

しかし、自民党が取りまとめた「国家安全保障基本法案」は、秘密保全法制の立法を義務付けるものとなっており、言論統制に向けた動きがあることに警戒しなければなりません。

秘密保全法制が実現した場合、報道に及ぼす影響は計り知れず、我々国民の知る権利にどのように影響されるのでしょうか。院内集会・シンポジウムというそれぞれの場所で、報道・出版の現場にいる方々にお話を伺うことで、改めて、皆さんと秘密保全法制の危険に迫りたいと考えています。奮ってご参加ください。

院内集会「秘密保全法制と言論の自由」(※要申込)

日時 2013年2月19日 12:00～13:00 (開場 11:45)

場所 参議院議員会館地下1階B109会議室 (定員約70名)

プログラム (予定) 基調報告, 国会議員の方からの御発言

◎報道関係者からの発言

山了吉 (日本雑誌協会編集倫理委員会委員長) / 大治朋子 (毎日新聞記者)

山田健太 (日本ペンクラブ理事/同言論表現委員会委員長) / 日比野敏陽 (日本マスコミ文化情報労組会議議長)

※裏面の申込用紙にてお申し込みください。

事前のお申込がない場合、定員の関係で御入場いただけないことがあります。

秘密保全法制シンポジウム PART III

「言論の自由を守れるか」

日時 2013年2月26日 18:00～20:00 (開場 17:40)

場所 弁護士会館2階講堂「クレオ」A

プログラム (予定)

◎基調報告「秘密保全法制が報道の自由に与える影響」田中早苗 (日弁連人権擁護委員会副委員長)

◎特別報告「国家安全保障基本法案とは何か」藤原真由美 (日弁連憲法委員会事務局長)

◎パネルディスカッション

青木理 (ジャーナリスト) × 轡田隆史 (ジャーナリスト)

× 梶山天 (朝日新聞記者) × 高田昌幸 (高知新聞記者, 元北海道新聞記者)

※UStreamにて配信予定→<http://www.ustream.tv/channel/himitsu-sympo20130226>

※申込不要です

※当日は、日本弁護士連合会職員や報道機関による写真・映像撮影が行われる場合があります。撮影を望まない方は、当日、担当者までお知らせください。

2.19 院内集会

「秘密保全法制と言論の自由」

申込用紙

日本弁護士連合会法制部法制第一課行／FAX：03-3580-9920

◆御所属（弁護士の場合は所属会）

(_____)

◆お名前

(_____） 登録番号（弁護士のみ）(_____)

◆御連絡先（どちらかのみ，御連絡の付く方の御記入で構いません。）

(TEL： _____ - _____ /Mail： _____)

※御提供いただいた個人情報は，日弁連のプライバシーポリシーに従い厳重に管理し，
本イベントの参加者の把握の目的以外には使用いたしません。

◆お問い合わせ先

日本弁護士連合会 法制部法制第1課

<http://www.nichibenren.or.jp>

東京都千代田区霞が関 1-1-3

TEL.03-3580-9887 FAX.03-3580-9920